

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
------	----	-----	----	-----	----	-----

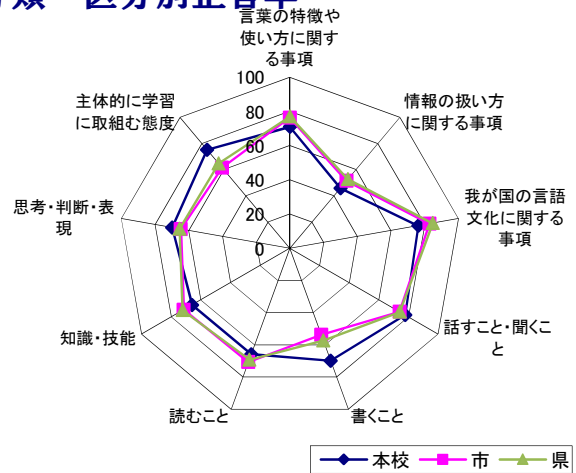
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.0	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	46.0	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.2	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	77.8	74.1	74.2
	書くこと	69.8	53.7	57.2
観点	読むこと	65.9	70.7	69.2
	知識・技能	66.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	69.8	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	75.2	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

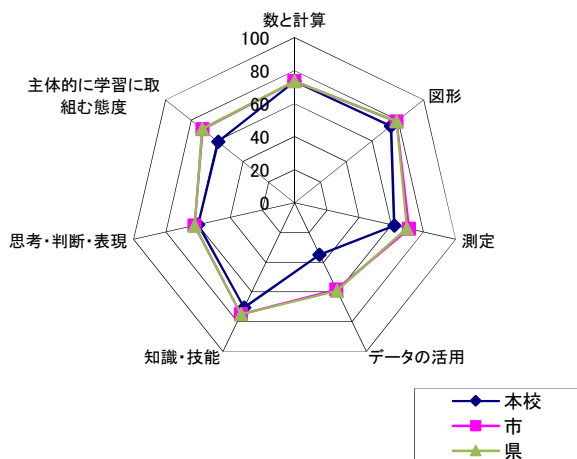
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字の読み・書き、ローマ字の理解に課題が見られる。特に、日常生活での使用頻度が低い漢字や音読みと訓読みをもつ漢字の理解に曖昧さが見られる。	・漢字については、漢字練習をするだけでなく、短文づくりを取り入れる。どのように文章に活用することができるのかを考えながら学習することにより、一層の定着を図る。 ・ローマ字の読み書きに取り組んだり、パソコン使用時にはローマ字入力を行ったりすることで使用頻度を高めていくよう心掛ける。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●資料から必要な情報を読み取ったり、要約したりすることが難しい。 ●「国語辞典の使い方の理解」では、国語辞典の使い方についての理解が不足している。	・日ごろから国語辞典を身近なものとし、分からない言葉に出会ったときすぐに辞書を引くように声をかけ、言葉を調べたり、確認したりするように指導する。 ・聞いたり、読んだりしたことを自分の言葉で再度要約する活動を取り入れることで多くの情報から必要なものを拾い選択し、要約する力を向上させていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「漢字のへんやつくりの理解」では、漢字のつくりについての理解が不足している。	・漢字の学習では、へんやつくりなどを意識して文字の練習をしたり、熟語やことわざなどを用いて言葉に対する興味や関心をもてるように活動を工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○各設問の平均正答率は、市・県の平均とほぼ同じであり、特に自分の考えを理由を挙げながら話す設問の正答率が高い。	・聞き取りの場面において、「何のために聞くのか」、「どんなことを聞くのか」というように、意識して話を聞くように指導する。また、問いに対して的確に答えることができるように、日常生活でも理由や根拠を明確にして話すように指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○自分の考えを字数制限など条件に合わせて書く力が高い。定期的にテーマに沿って字数制限内で作文を書くことを意図的計画的に行っている成果であると考えられる。 ●自分の考えを指定された形に書き直すことが難しいと思われる。	・書く力を向上させるために行事作文や短作文、学習の振り返りなど書く機会を多く設けたり、また、自分の書いた作文を読み直す場面を設けることで段落や文章構成や量を意識させたりしながら、書く力が身に付くような指導を心がける。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○物語の問題では、登場人物や場面の様子を叙述を基に捉えることができた。 ●説明文では、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。	・物語文では、どの文から登場人物の気持ちがわかるか、また、場面の移り変わりによってどのように登場人物の気持ちが変化していくのかなどを意識して読むことを強化していきたい。 ・説明文では、段落ごとに要旨をまとめたり、それぞれの段落がどのように関わっているのか考えながら文章構成図を書いたりすることを通して、文章の内容を的確に読み取ることができる力をつけていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.5	73.5	73.6
	図形	74.6	79.0	79.1
	測定	61.9	71.1	69.8
	データの活用	34.9	58.4	59.2
観点	知識・技能	70.5	75.0	75.0
	思考・判断・表現	59.9	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	59.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

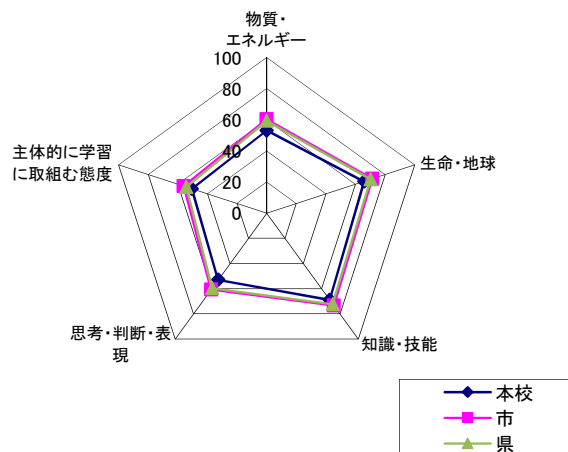
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と同じである。</p> <p>○わり算の文章問題を解くための除法の式を選んだり、文章問題の答えを求めることは、県の平均より高い。</p> <p>●3けた÷4けた、3けた÷3けた計算や、□を使った文章問題を表した図の構造をとらえる問題に、課題が見られる。</p>	<p>・計算については、さらに定着を図るために、朝の学習の時間や宿題等で四則計算の復習を取り入れながら、継続して学習できるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○正三角形を作図することは、市の正答率より高い。</p> <p>●円の半径についての質問や、球の半径から球が一つ入った箱の辺の長さを求める問題に課題が見られる。</p>	<p>・球の直径や半径がどこにあたるのかを具体物を用いてしっかりとおさえる。また、実際に球を箱にしまうなど、日常生活から学ぶことができるような活動を取り入れ、学習の定着を図る。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○道のりの意味についての問題は、県の平均より高い。</p> <p>●ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることや、1分=60秒の関係を理解する問題など時刻と時間に関する問題に課題が見られる。また、はかりの目盛を読み取って重さを求める重さの問題に課題が見られる。</p>	<p>・時刻や時間、長さ、重さを実生活の中でも意識する機会を増やし、日常生活と結びつけながら学習の定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●棒グラフを正しく読み取る問題や複数の棒グラフを読み合わせたグラフを正しく読み合わせる問題に課題が見られる。</p>	<p>・長文問題や情報の多い問題文から情報を整理したり、多種多様な考え方に触れる機会を作ったりする。</p> <p>・他教科でも表やグラフに表す機会を意図的に設け、教科横断的に活用力を育てていく。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.1	60.2	59.2
	生命・地球	65.8	71.3	70.3
観点	知識・技能	68.9	73.4	72.3
	思考・判断・表現	52.9	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均率より低い。</p> <p>●「磁石の性質」について、磁石と物の距離によって引き付ける力が変わるか予測する設問と磁石の極を確かめる方法を考える力に課題が見られる。</p> <p>●「物の重さ」について、実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する力が不十分である。また、無回答者が多い。</p> <p>●「物の重さ」について容器にプラスチックが活用されている理由を説明することができていない。また、無回答者が多い。</p>	<p>・生命と地球の区分が苦手である児童が多い(特に磁石の性質、音の性質、物の重さの単元)ので朝の学習の時間や宿題プリントを出すなどして集中的に知識の定着を図る。</p> <p>・無回答が多い設問は、理由や予想、あてはまる言葉を自分で考えて書く内容が多い。自分の考えを説明することや、相手が意図することを予想し言葉にする力が必要だと考える。授業での振り返りやまとめなどを書き、伝えたり、本を読んで作者の言いたいことをまとめる活動を意図的に取り入れる。</p> <p>・文章・資料・問題を繋げて考えることのできる読解力を付けさせるため、理科の授業だけでなく、国語や算数の時間に文章問題を取り組ませる機会を増やしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均率より低い。</p> <p>○「太陽と地面のようす」では、方位磁針の使い方、影の方位などについて理解している。</p> <p>●太陽の動き方から推測することができていない。</p> <p>●正しい虫眼鏡の使い方が身に付いていない。</p> <p>●県、市と同様にソーラーラッカーで料理ができる理由の説明ができない。</p> <p>●昆虫の体のつくりや育ちについての知識を問う問題の正答率が市に比べて下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・「太陽と地面の様子」については、授業で再度太陽と影の位置の変化と方位を捉えることや日なたと日陰の地面の温度は時刻と共に変化することを復習する。</p> <p>・昆虫の体のつくり、昆虫の育ち方について、通年を通して身近な自然の中から観察させることで理解を深めさせる。</p> <p>・観察の結果から考察し、実験をする場面において、ペア・グループなどで予想をしたり、結果から分かったことなどを伝え合ったりと、言語活動の充実を図る。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょう戦している」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、95.3%で市の平均を上回っている。また「学習に自分から進んで取り組んでいる」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、90.5%で市の平均を上回っている。これらのことから、学習に取り組む意欲があるということが分かる。

○「毎日、同じくらいの時くくねている」「早ね、早起きを心がけている」という質問に対して肯定的に回答している児童の割合は、市よりも高くなっていることから、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かる。しかし、「テレビゲームをする時間」や「インターネットをする時間」が3時間以上と答える児童が市の平均を上回ることから家庭との連携を図り、家庭での時間の過ごし方について考えていく必要がある。

○「家で、学校の授業の予習をしている」という質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は、市を上回っている。また「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に対する肯定的な回答をしている児童の割合は市の平均とほぼ同じである。予習の大切さに加えて、復習の大切さを改めて伝え、家庭学習の充実を図りたい。

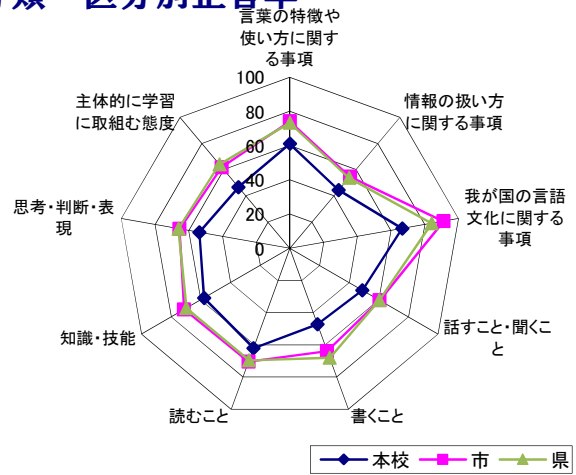
●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」という質問に対する肯定的な回答の割合は市の平均よりも低いので、問題を解き直すことの大切さを伝えて学習方法を紹介したり、提案したりすることで家庭での学習の充実を図りたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」という質問に対する肯定的な回答の割合は市の平均を下回っている。短い文章からでも自分の考えを書く活動を行ったり、友達の話や意見を最後まで聞くように指導したりすることによって、書く力や聞く力を高めていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.1	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	44.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	48.9	60.6	60.4
	書くこと	47.2	63.8	68.0
	読むこと	62.0	70.4	69.6
観点	知識・技能	57.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	53.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	46.7	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

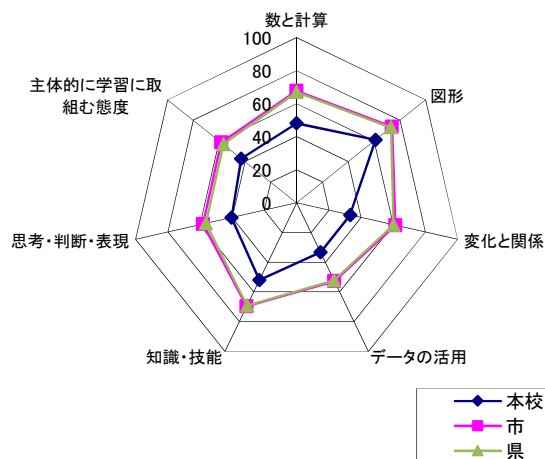
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漢字の読みが概ねできているが、正しく書くことはできていない。 ●修飾語の意味を理解しておらず活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字は、国語以外の学習の中でも積極的に使うように言葉をかけ、また、主語・述語・修飾語の基本的な文の構成を再度確認する。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報と情報との関係の理解と相手の話の中心を理解することが難しいと思われる。また問題文の読み込みが不十分で、理解して設問に答えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用については、まず資料をじっくり読み意味を理解し、要約し、内容が理解できるよう要約の視点を与えたり、個に応じた支援を工夫したりする。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ことわざの意味の理解が不足している。また漢字辞典の使い方も理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段からことわざや慣用句、四字熟語といったような、日本の言語文化に興味をもつような取り組みをしていく。また日々の学習において漢字辞典の活用を推奨し、使い方を定着させていく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相手の伝えたいことの中心を捉えること、また中心を明確にするための工夫を捉えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことにおいて、話の中心を意識したり、相手の伝えたいことを理解しようとしたりする話の聞き方を心がけさせる。また、話す時も、相手に伝わりやすい話し方の視点やスキルについて繰り返し指導する。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より程度低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定された長さの文章を書くことができていない。また段落構成を理解しておらず、自分の考えと理由や事例を明確にした文章を書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、日記指導や短作文などを取り入れることで、書くことへの抵抗を少なくする。 ・文章の段落構成や理由や事例の書き方など、整理された作文の書き方を指導する。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日頃から図書館利用や読み聞かせなど、物語に親しむことができているため、文章を読んで感じたことを共有することはできた。 ●物語の問題では、文章から書き抜く問題ができていない。 ●説明文では、叙述を基に内容を捉えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文においては、叙述をもとに、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を正確に読み取るよう指導する。 ・説明文では、はじめ・中・終わりの意味や段落相互の関係について理解できるよう、キーワードを捉えたりまとまりで内容を捉えたりするスキルを確認する。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.1	67.8	67.0
	図形	61.1	73.9	73.1
	変化と関係	33.3	61.4	60.2
	データの活用	33.3	52.7	52.1
観点	知識・技能	52.0	69.7	69.2
	思考・判断・表現	40.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	42.9	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

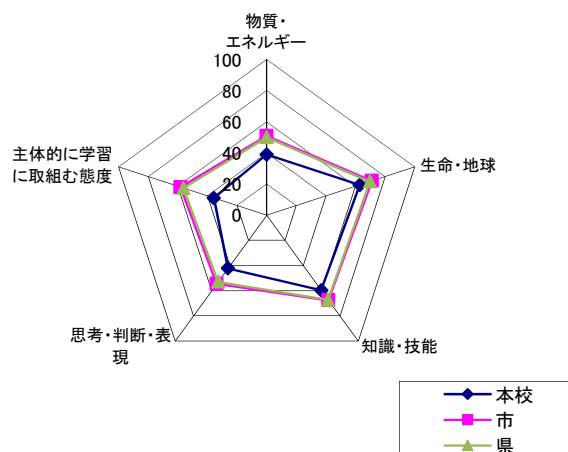
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●整数の基本的な四則計算は比較的よくできているが、小数のひき算・わり算、分数のたし算の計算の定着が不十分である。文章問題を表した図の構造をとらえたり、文章問題に合った式を選んだりすることに対して、戸惑いが推察される。</p>	<p>・今後も計算の仕方を振り返ったり、図を用いて演算決定をしたりしながら、児童のつまづきやすい小数・分数の計算の処理を正確に行えるよう指導していきたい。</p> <p>・数直線や線分図などに対する利便性を感じさせ、自らの立式に生かすような指導を行う。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○平面図形の面積の公式を理解しており、繰り返し学習に取り組んだため、図から式を求めることができている。</p> <p>●空間図形に課題が見られる。直方体のある辺に平行な辺を理解していない。また、四角形の辺の長さの性質に関しても理解に至っていないことが表れた。</p>	<p>・空間図形の学習においては、具体物を活用し、視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>・図形の辺や角に関する性質を復習する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。この領域の問題において、全問で市の正答率を下回った。</p> <p>●「簡単な割合についての問題」では、何を基準とし、1と見るかということを理解していない児童が多く、数量の関係を割合を使って説明することに課題が見られる。</p>	<p>・文章問題において、ただ立式するだけでなく、言葉の式や線分図などでも表すことができるよう指導する。また、乗法と除法の意味を復習する。</p> <p>・割合についての問題を、日常生活の場面に置き換えたり、簡単な数字を使ったりしながら、問題のイメージがしやすいようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。この領域の問題において、全問で市の正答率を下回った。</p> <p>●まず折れ線グラフの読み取りに課題がある。その上、2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明することにも課題がある。</p>	<p>・それぞれのグラフのよさや特徴を理解し、基本的な折れ線グラフの読み取り方を復習する。</p> <p>・理科や社会科等で、様々なグラフを読み取る練習を重ねていく。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	38.9	50.8	50.0
	生命・地球	62.8	71.1	69.8
観点	知識・技能	59.7	67.6	67.2
	思考・判断・表現	42.2	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	35.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「水の姿」、「ものの体積と温度」、「電気の働き」の単元はかなり下回っている。 ●主体的に学習に取り組む態度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属や空気の温まり方に関する理解を深めるため、実験の結果から生活の中での事象に該当するものを思い起こさせるようにする。 ・主体的に学習に取り組む態度が低いので、生活の中の疑問を導入で活用したり、意欲を高めるような工夫をしたりする。 ・実験の結果から導き出される考察を大切な覚えるべき言葉とともに関連付けて考えさせる。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「1年間の動物の様子」や「動物の体のつくりと運動」「月と星」の単元では課題が見られる。 ●長文の問題文を理解できず、選択肢のみを読んで答えている児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文をしっかりと読む習慣を付けさせる。 ・実験によって導き出される結果から、どんなことが言えるか、考察を自分でしっかり考え、話し合うことで、見方や考え方を広めるようにする。 ・生活の中で学習した内容が生かされていることを、折に触れ考えさせるようにする。 ・月や星をもう一度観察させ、改めて実感として理解するようにさせる。 ・1年間の動物の変化を温度の違いと関連付けて考えさせる。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という設問に対して、児童の肯定的回答が100%であり、家庭での学習が習慣化していると考えられる。しかし、「学校の授業の予習をしている」や「学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた学習をしている」などの設問に対して、児童の肯定的回答が市の平均を下回っていることから、決められたものに対しては、積極的に取り組むことができるが自主学習などのような課題に対して戸惑いが感じられる。

○1か月の読書量5冊以上が全体の62.1%、学校の授業以外の1日当たりの読書時間は30分以上の児童が61.1%と、市平均を大きく上回っている。

○「学校の宿題は、自分のためになる」「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についての肯定的回答が100%であり、目標や目的をもって取り組んでいることがうかがえる。

○「学校での役割や係の仕事や責任をもって取り組んでいる」について児童の肯定的回答が83.4%、「友達同士で話し合っただけの決まりなどを決めていく」について肯定的回答が100%である。自分の一生懸命やっていることが他者に認められることで、自分の自信に繋がり、自己有用感の高い児童が多いことが分かる。さらに、当番活動や係活動に責任をもって取り組んでいる児童を認めたり、友達やクラス、学校のために良いことをした児童を称賛したりすることで、自分への役に立っていることに気付かせ、行動や発言に自信がもてるようにする。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」児童が61.1%、「自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」児童は77.7%であることから自分の考えを持ち、伝え合う力が弱いことが分かる。考え方、話し合いの進め方や発表の仕方のモデルを示し、思考力、判断力、表現力を伸ばしていく必要がある。

●本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ているという設問に対して、肯定的回答が38.9%で、難しい問題に出会うとやる気が出るという設問に対して肯定的回答が44.4%であることから、課題に対して自分なりに調べて解決しようという意欲が低い。その反面、「自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」という設問に対して肯定的回答が77.5%であることから、課題解決方法を具体的に示し、解決する時間を設けて取り組むようにする。また、自分から課題を見つけ、取り組んでいる児童を称賛することで、学ぼうとする意欲を高めていく。

●平日の一日当たり2時間以上テレビゲームをする児童が61.2%であり、2時間以上テレビなどを見る児童が72.2%いることから、家庭と連携した家庭での時間の過ごし方について考えていく必要がある。

●各教科等の学習に対する必要感の割合は、国語と算数において100%の児童が肯定的な回答をしている。理科や社会、技能教科においても、教科独自の学ぶ楽しさと学ぶ意義を実感させる指導に努めていく必要がある。

宇都宮市立上河内西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、全体で家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。	家庭学習時間については4・5年生ともに、市より肯定的な回答をしている。学年差はあるが、予習復習も家庭学習に取り入れられている。着実に家庭学習習慣が身に付いてきている。テストについても、学校で解き直しと振り返りをさせ、家庭学習は復習をするなど、学びをつなげられるようにしていく。
毎時間、各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、発達段階に合わせた振り返りの視点をもとに、振り返りを書く活動を積み重ねた。	学習に対する気持ちや態度は、4年生は肯定的に回答をしている一方、5年生ではあまり肯定的な回答が見られなかった。今年度の学校課題に関連するところなので、難しい問題に出会ったときにも粘り強く取り組めるように支援していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年共に算数が市より低い領域が多い。詳しく見ると、文章問題にあった線分図や折れ線グラフや棒グラフの読み取りが共通して低い。思考力を伴い、記述する問題が苦手傾向があり、学年が上がるごとに無解答が増えている。	朝のパワーアップタイムの充実	朝の学習で、4～6年生は算数を重点的に取り扱うことにした。習熟に合わせ、落ちがあれば、学年を遡って復習させ、習得できれば、レベルアップして進めさせることができる学習体制を学校全体で作ることにした。基礎力を付け、学びに向かう粘り強さを身に付けさせたい。